

|            |   |
|------------|---|
| 研究プロジェクト名称 | <b>Covid-19 and Society: Comparative Analysis of Risk Communication, Expertise, and Citizenship</b><br>(COVID-19 対策の国際比較分析～リスクコミュニケーション、専門知、市民社会) |
| 研究期間       | 2021年12月～2024年11月   |

**研究代表者**

|         |                  |
|---------|------------------|
| 氏名      | 田中 幹人            |
| 所属機関・役職 | 早稲田大学 政治経済学術院 教授 |

**研究概要**

2020年初頭から本格的に世界を席卷した新型コロナウイルス感染症 COVID-19 は、世界中の多様な市民社会を揺るがす、世界共通のリスクとなり続けている。本プロジェクトは、COVID-19 パンデミックへの社会反応について、人文社会科学の質的・量的な研究手法を組み合わせ、次の3つの領域で展開する国際比較研究プロジェクトである：(1)マスメディアとソーシャルメディアにおける、COVID-19 に際して行われたリスクコミュニケーションの実態調査、(2)不確実性をともなう状況のなかでの、専門知の生産と使用における問題、(3)リスクや専門知に関する公共の理解と反応。

これらのダイナミクスについて、計算社会科学や科学技術社会論の技法を用いて分析を行う。さらに対象としては日本を中心に中国、台湾、韓国、英国、米国など各国・地域にまたがる調査や、個別事例を深掘りした分析を行う。

この研究プロジェクトにより、それぞれの社会的文脈において、パンデミックというクライシス状況下で世界各地で実施されたガバナンスの異同や、その背景となったリスクの議論・共有・構築過程を理解することを目指す。この成果を通じて、コロナ禍からの市民社会のよりよい回復への道筋を示すことが期待される。